

大阪大学大学院医学系研究科漢方医学寄附講座活動報告

職員

准教授	西田慎二
助教	井上隆弥 岸田友紀 有光潤介
特任研究員	中西美保
技術補佐員	呉非
事務	大橋真理

沿革

大阪大学大学院医学系研究科は、大阪大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」の一環として、21世紀を担う医療のスペシャリストの育成と世界をリードする研究の推進を目指している。すでに最先端の研究として遺伝子治療、再生医療をはじめ多くの実績を積み上げ、今後も未来医療の発展に大きな可能性が期待されているところである。

しかしながら一方で高齢化社会が進行し、健康志向、Quality of Life 改善が望まれる中、西洋医学を基盤とする先端医療のみでは対応不可能な病態の増加、症状の多様化がみられる。西洋医学に対し、東洋医学は別の観点から疾患及び患者に対応する学問として発展してきている。東洋医学は患者の症状を常に多角的に捉え、総合的な所見を重要視し、個々の対応を行い治療に貢献してきた。現代の医薬は、単一の症状に効果が出るように開発されてきたのに対し、漢方薬は多様な症状に効果を与えることを想定して開発されている。近年、遺伝子医学の分野で言われている「個の医学」や生活習慣病の分野で注目されている「予防医学」の概念などは、最先端の西洋医学の立場から、あらためて東洋医学にその考え方を学ぼうとする動きが広がりつつある。東洋医学は中国や東南アジア特有の学問であり、「漢方医学」は我が国が独自に発展させてきたものである。

本講座を開設することにより、これらの歴史的に継承されてきた医学を新たに最先端の解析技術を駆使して有効性を検証し、さらに発展させ、新しい「統合医療」を目指すことが可能になると考えられる。このような背景から、平成17年10月に漢方医学寄附講座が開設された。

診療活動

岸田が産休による休職のため、中西が外来を開始した。1診体制で、場所は総合診療部の午後診

枠を使用、初診・再診ともに完全予約制である。院外処方であるが、日本で保険適応のあるほぼ全ての種類のエキス製剤と生薬製剤が処方可能である。外来部門のみであるが、他科入院中の患者に対する診察は可能である。なお、鍼灸治療は行っていない。

1日の患者数は初診が1~2名、再診が10~20名程度である。大学病院の予約制外来という特殊事情もあり、慢性疾患で病歴・愁訴の複雑な患者が多い。疾患群としては多い順に慢性の疼痛、身体表現性障害、悪性腫瘍治療後の後遺症や補助療法、気分障害・不安障害などの精神科疾患、自己免疫疾患、産婦人科疾患、皮膚科疾患、疲労を主訴とする者、消化器疾患などである。

患者数は増加傾向にあり、1診体制ではなかなか困難な状況になりつつある。このため、2009年春からは一部午前診の開始、午後の2診体制導入など、3枠の増加を予定している。

教育活動

1) 学部学生に対して

3回生対象：薬理学の中で2コマの講義を行っている。主に生薬薬理学として解説し、漢方医学の理論的背景はあまり触れない。

4回生対象：臨床医学特論の中で7コマの講義を行う。教室員全員および学外ゲストスピーカーによる講義を行っている。進級のために必要な授業の1つであり、評価は出席とレポートによって行っている。出席率は非常に高い。

6回生対象：総合診療部の臨床実習中に、希望者に対して外来実習を行っている。

2) 大学院学生に対して

大学院修士課程に対して、漢方医学の授業を1コマ行っている。

3) 大学クラブ活動に対して

医学部和漢薬研究会の学生に対し、顧問として日常勉強会また学園祭での適宜指導を行っている。医学部のクラブではあるが、総合大学であることより薬学部や社会学系の学生も参加しており、アクティブに活動を行っている。

4) 2008年12月に、研修医を対象とした基礎セミナーを行った。大阪大学医学部付属病院、ならびに関連病院で研修中の研修医15名の参加がみられた。研修医に対する漢方教育は現在の医療制度では手薄になっており、今後このセミナーは継続させる予定である。

5) 学内教育・啓蒙活動 (faculty development の一環として)

大阪大学漢方研究会(クローズドメンバー)、漢方古典研究会(クローズドメンバー)、大阪大学基礎漢方研究会(オープンメンバー)を、月に1回開催している。臨床各科や薬剤部など、幅広く参加がみられる。クローズドメンバーの中からは、東洋医学会総会および関西支部例会へ、また各自の専門の学会に漢方をテーマとした演題を発表している。なお、平成18年3月26日より西田愼二が指導医、ならびに当該施設が日本東洋医学会研修施設に認定されており、医局員ほか数名が専門医取得に向けて研修中である。

6) 他学に対して

西田は関西医科大学非常勤講師として、「全人的医療学」の授業を1コマ担当している。

研究活動

西田は心身症疾患についての臨床研究を行っている。井上、中西は疼痛疾患に対して基礎および臨床研究を行っている。岸田は運動器・整形外科領域についての基礎および臨床研究を行っており、平成19年度科学研究費補助金(若手B)の「老年疾患における漢方薬の科学的効果判定」を遂行中である。有光は膠原病疾患についての基礎及び臨床研究を行っている。また教室全体として、漢方の古典的診断手法の定量・定性化に向けての研究を進めている。

受賞

- 1) 西田愼二: イスクラ奨励賞、イスクラ厚生事業団: 「抑肝散(加陳皮半夏)が有効な心療内科患者についてのTEGによる検討」2008.2

学外講演、学会発表

A) 講演

- 1) 西田愼二: 今冬のカゼ・インフルエンザに対する漢方治療、南大阪漢方研究会、堺、2008.1
- 2) 西田愼二: 大阪大学付属病院漢方外来の現状と不定愁訴の漢方治療、三重大学東洋医学研究会、津、2008.1
- 3) 井上隆弥: 痛みと漢方、日本整形外科学会(地方会)、大阪、2008.2
- 4) 西田愼二: 消化器疾患の漢方治療、南大阪漢方研究会、堺、2008.7
- 5) 井上隆弥: 漢方治療の基礎、大阪大学麻酔科セミナー、吹田、2008.7
- 6) 西田愼二: 不定愁訴の漢方治療、医学生のための漢方セミナー、四日市、2008.8
- 7) 西田愼二: 漢方医学の基礎、KAMPO KANSAI、

守口、2008.9

- 8) 井上隆弥: 脊椎疾患に対する神経ブロック療法の適応、大阪大学疼痛勉強会、大阪、2008.9
- 9) 西田愼二: うつ病・うつ状態の漢方治療、日本東洋医学会平成二十年滋賀県教育講演会、大津、2008.11
- 10) 西田愼二: 漢方医学の基礎、KAMPO KANSAI、守口、2008.11
- 11) 西田愼二: 高齢者の不定愁訴に対する漢方治療、第4回岡山臨床漢方研究会、岡山、2008.11
- 12) 井上隆弥: 痛みと漢方、研修医のための大阪大学医学部漢方医学セミナー、吹田、2008.12
- 13) 有光潤介: 消化器疾患の漢方治療、研修医のための大阪大学医学部漢方医学セミナー、吹田、2008.12
- 14) 中西美保: 女性疾患の漢方治療、研修医のための大阪大学医学部漢方医学セミナー、吹田、2008.12
- 15) 西田愼二: 漢方医学の基礎、研修医のための大阪大学医学部漢方医学セミナー、吹田、2008.12
- 16) 西田愼二: 不定愁訴の漢方治療、第5回 現代漢方講座、広島、2008.12

B) 学会発表

- 1) 西田愼二、有光潤介、岸田友紀、井上隆弥: 漢方薬の意外な効果を考える、日本東洋医学会総会関西支部三県合同講演会、大阪、2008.2
- 2) 西田愼二: 東洋心身医学研究会 EBM 作業チーム調査報告、東洋心身医学研究会、東京、2008.2
- 3) 井上隆弥: 経皮的コルドトミーが有効であった胸膜中皮腫の1症例、大阪大学疼痛勉強会、吹田、2008.3
- 4) 井上隆弥、岸田友紀、有光潤介、西田愼二: 西洋医学的治療が無効であった偏頭痛に漢方薬が著効した1症例の経験、関西頭痛懇話会、大阪、2008.4
- 5) 井上隆弥、阪上学、松村陽子、住谷昌彦、松田陽一、柴田政彦、真下節: ニュークレオプラスティ(経皮的の高周波椎間板減圧術)治療、6症例の予後についての検討、ペインクリニック学会中国四国合同地方会、岡山、2008.5
- 6) 西田愼二、河合麻里、有光潤介、萩原圭祐、井上隆弥、岸田友紀: 再発性多発性軟骨炎の肋軟骨痛に対して、漢方薬を使用した1例、日本東洋医学会総会、仙台、2008.6
- 7) 萩原圭祐、河合麻理、有光潤介、西田愼二: 吸収不良症候群を伴う膠原病性肺高血圧に対しボセンタンと附子理中湯が奏功した2症例、日本東洋医学会総会、仙台、2008.6
- 8) 深尾篤嗣、藤見幸雄、後山尚久、尾崎真奈美、

村川治彦、橋爪誠、竹林直紀、神原憲治、山本和美、高津尚子、西田愼二、岸本寛史、佐々木恵雲、奥健夫、内藤亮、花房俊昭、中井吉英：心身医学から魂身医学へー第三段階医学・医療へのパラダイムシフトー、第49回心身医学会総会、札幌、2008.6

- 9) 有光潤介、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、井上隆弥、岸田友紀、西田愼二：化学物質過敏症に対して漢方治療が有効であった1例、日本東洋医学会総会、仙台、2008.6
- 10) 井上隆弥、安部剛志、住谷昌彦、阪上学、松村陽子、松田陽一、柴田政彦、真下節：漢方治療が有効であった慢性会陰部痛10症例の検討、日本ペインクリニック学会、福岡、2008.7、
- 11) 井上隆弥、岸田友紀、有光潤介、西田愼二：漢方治療が有効であった慢性会陰部痛12症例の検討、日本疼痛漢方研究会、東京、2008.7
- 12) 中西美保、蔭山充、福井弥己郎、野坂修一、有光潤介、井上隆弥、岸田友紀、西田愼二：柴胡剤と駆瘀血剤の併用が著効した頸椎疾患の3症例、日本疼痛漢方研究会、東京、2008.7
- 13) 西田愼二、有光潤介、中西美保、井上隆弥、岸田友紀、吉川秀樹：高齢者の巨大・難治性口内炎に対して、清熱補気湯の加味方が奏効した一例、第18回漢方治療研究会、千葉、2008.9
- 14) 有光潤介、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、中西美保、井上隆弥、岸田友紀、西田愼二、吉川秀樹：エキス製剤ではコントロール困難であったレイノー現象に対して、当帰四逆加呉茱萸生姜湯加減が著効した1例、第18回漢方治療研究会、千葉、2008.9
- 15) 井上隆弥、有光潤介、中西美保、岸田友紀、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、西田愼二：漢方治療が有効であった慢性会陰部痛2症例の経験、日本東洋医学会関西支部例会、大阪、2008.10
- 16) 有光潤介、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、中西美保、井上隆弥、岸田友紀、西田愼二：西洋医学的治療ではコントロール困難であったSLEに対して、漢方薬が有効であった一例、日本東洋医学会関西支部例会、大阪、2008.10
- 17) 中西美保、蔭山充、中井恭子、有光潤介、井上隆弥、岸田友紀、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、西田愼二：原因不明の呼吸困難・咽頭閉塞感に“奔豚湯（肘後方）”が著効した1症例、日本東洋医学会関西支部例会、大阪、2008.10
- 18) 中井恭子、蔭山充、中西美保、志馬千佳、西田愼二：不定愁訴様の筋肉痛に、“疎経活血湯”が劇的に鎮痛効果を発揮した58歳女性、日本東洋医学会関西支部例会、大阪、2008.10

- 19) 大谷安司、有光潤介、中西美保、井上隆弥、尾崎和成、萩原圭祐、岸田友紀、西田愼二：肺癌化学療法中の好中球減少に対する人参養栄湯の有効性の検討、日本東洋医学会関西支部例会、大阪、2008.10
- 20) 清水健太郎、有光潤介、井上隆弥、中西美保、岸田友紀、萩原圭祐、大谷安司、尾崎和成、西田愼二：重症SIRS患者での腸管蠕動不全に対する大黄の効果、日本東洋医学会関西支部例会、大阪、2008.10
- 21) 萩原圭祐、有光潤介、大谷安司、尾崎和成、中西美保、井上隆弥、岸田友紀、西田愼二：生物製剤不応となった関節リウマチ患者に半夏瀉心湯合六君子湯が奏功した一例、日本東洋医学会関西支部例会、大阪、2008.10
- 22) 尾崎和成、有光潤介、萩原圭祐、大谷安司、中西美保、井上隆弥、岸田友紀、森下竜一、西田愼二：認知症高齢者の洞不全症候群に対して、五苓散エキス製剤が奏効した一例、日本東洋医学会関西支部例会、大阪、2008.10
- 23) 有光潤介、西田愼二、萩原圭祐、河合麻理、平野亨、桑原裕祐、檜崎雅司、緒方篤、田中敏郎：ステロイド抵抗性SLEに対して、漢方薬が有効であった一例、第58回日本アレルギー学会秋季学術大会、東京、2008.10

論文発表

A)原著

- 1) Kuwahara Y, Hagihara K, Shima Y, Shirayama D, Kawai M, Hirano T, Arimitsu J, Ogata A, Tanaka T, Kawase I, Tanaka T, Kawase I: Quantification of hardness, elasticity and viscosity of the skin of patients with systemic sclerosis using a novel sensing device (Vesmeter): a proposal for a new outcome measurement procedure. Rheumatology. : 47:1018-24, 2008
- 2) Kuwahara Y, Hagihara K, Shima Y, Shirayama D, Kawai M, Hirano T, Arimitsu J, Ogata A, Tanaka T, Kawase I, Tanaka T, Kawase I: Quantification of hardness, elasticity and viscosity of the skin of patients with systemic sclerosis using a novel sensing device (Vesmeter): a proposal for a new outcome measurement procedure. Arthritis Care & Research, 55: 603-609, 2008

B)総説、症例報告など

- 1) 西田愼二：教育講演 歯科・口腔疾患の東洋心身医学的治療。日本歯科東洋医学会誌、27、

57-61、2008

- 2) 有光潤介、萩原圭祐、井上隆弥、岸田友紀、西田慎二：リウマチ性多発筋痛症に対して漢方治療が有効であった2例。漢方研究、6、2-3、2008
- 3) 中西美保、蔭山充、中井恭子、志馬千佳、福井弥己郎、野坂修一、西田慎二：難治性の帯状疱疹後神経痛(PHN)に対する桂枝加朮附湯エキス剤と修治附子末 N との比較。痛みと漢方、18、40-43、2008
- 4) 中井恭子、蔭山充、中西美保、志馬千佳、高畠桂子、西田慎二：明らかに虚証を示す多愁訴の50歳女性が少量の桃核承気湯で著功した1例。産婦人科漢方研究のあゆみ、25、112-116、2008
- 5) 志馬千佳、蔭山充、志馬裕明、今野彰、越田光伸、西田慎二：アンチエイジングを目的とする八味地黄丸により妊娠に至った難治性不妊50例。産婦人科漢方研究のあゆみ、25、99-103、2008
- 6) 中井恭子、蔭山充、中西美保、志馬千佳、高畠桂子、西田慎二：桃核承気湯により、長年の腰痛が劇的に改善した38歳の月経前症候群女性。漢方研究、5、5-6、2008
- 7) 中井恭子、蔭山充、中西美保、志馬千佳、平井光三、西田慎二：巨大子宮筋腫による不快症状で低下したQOLが、駆瘀血剤の加減で良好である一例。漢方研究、6、8-10、2008
- 8) 中井恭子、蔭山充、中西美保、志馬千佳、西田慎二：機能性夜尿症に大柴胡湯が卓効した9歳女児の1例。漢方研究、11、6-8、2008

その他の活動（一般向け講演・マスメディア・取材など）

- 1) 有光潤介：「大阪大学における漢方診療と現状」、主催：ツムラ7月、大阪
- 2) 有光潤介：「女性のための漢方セミナー～気になる体の不調、これって更年期？～」、主催：毎日新聞社、11月、大阪
- 3) 有光潤介：「漢方治療のABC - 女性特有の病気を中心に - 」、主催：大阪市・大阪大学、11月、大阪
- 4) 西田慎二：毎日新聞健康相談に掲載